

2021. 04. 16 琉球新報

「清国（中国）人は展示前に発覚し、朝鮮人は展示後に問題化した。ともに批判が上がって展示は取りやめになったが、琉球人の場合は沖縄県庁が動かなかった」と指摘する龍谷大教授の松島泰勝さん「写真。3月に那覇市で開かれた「人類館事件」をテーマにしたシンポジウムで発言した。

1903年に大阪で開かれた「学術人類館」で各地の先住民族らとともに沖縄の女性も展示された。当時の新聞などが展示を人権問題として批判したことを挙げつつ「ただ当時の県庁



学知が帝国主義を補強

は不作為、もしくは共犯関係にあった」と語る。

さらに人類学者が戦前、全国各地の墓などからアイヌ民族や沖縄の人々の遺骨を持ち去ったことを例に、当時の研究者が「学知の側面から日本の帝国主義を補強していた」と批判した。

日本人による沖縄差別が沖縄戦での日本兵によるスパイ視、「集団自決」（強制集団死）につながったと強調。その上で幼少期に方言札を下げられた経験も語

り「差別をなくすには差別する側が差別をやめるしかない。

沖縄から持ち去った遺骨を返還しないことも差別だ。人類館の批判から学ぶべきだ」と強調した。

あしやぎ